

### 家庭血圧測定による健康寿命延伸に対する効果検証： 能勢研究（のせけん）

The investigation of geriatric syndrome prevention by home blood pressure measuring- Nose Study

神出 計

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

寿命の延伸、高齢化進展に伴い、認知症やフレイルなど、加齢に伴う身体の衰えである老年症候群への対策が課題である。老年症候群の発症・進展予防には、青壮年期からの高血圧など生活習慣病の予防・管理が重要と考えられるが、これまでの研究からは、老年症候群に対する予防医学的知見は十分に得られていない。家庭血圧は日常的で手軽な健康情報であるが、行政による介入として医療にかかっていない人々を含めて、家庭血圧測定が、代表的な老年症候群である認知症・フレイル・要介護状態を減らし、一般住民の健康寿命を延伸するかについては証明されていない。そこで我々は、大阪府能勢町（人口9750人、高齢化率39%）において、家庭血圧測定が、認知症やフレイル、要介護状態、また脳・心血管疾患を予防し、町民の健康寿命を延伸するかを検証することを目的とした、能勢町・大阪大学・オムロンヘルスケア社による産官学連携研究（能勢研究；のせけん）を計画した。2020年度から開始する5年間の研究プロジェクトであり、40歳以上の能勢町民を対象に、1000名以上のエントリーを目指している。最初の2年間は町を、家庭血圧測定・非測定地区に分け、認知機能（MOCA-J）や、フレイル関連指標（歩行速度・握力など）、心血管疾患発症やレセプトによる医療費、要介護認定率などを検討する。2年後からは全地区で家庭血圧測定を促し、前述アウトカムを検証する。